

地質情報利用に関するユーザーニーズ調査の概要

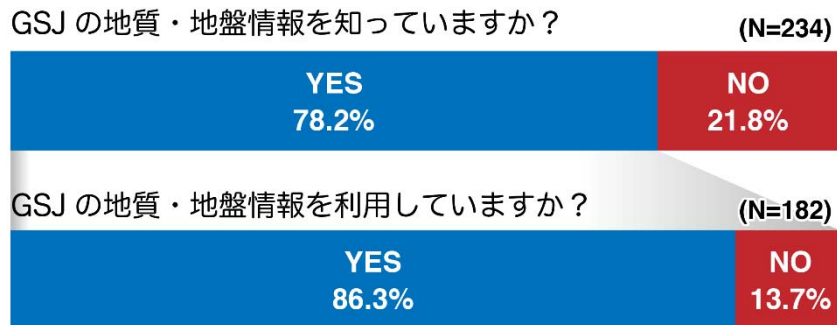
独立行政法人 産業技術総合研究所

1. 調査概要

- ・目的 産総研が公開する地質情報の利用について、ユーザーニーズをアンケート調査しその利用促進に資する
- ・対象 地質調査業を営む会社（全国地質調査業協会連合会所属 569 団体）
- ・日時 2014 年 3 月～5 月
- ・回答 234 件（回収率 41.1%）

2. 調査結果概要

A) GSJ が提供する地質情報の利用状況



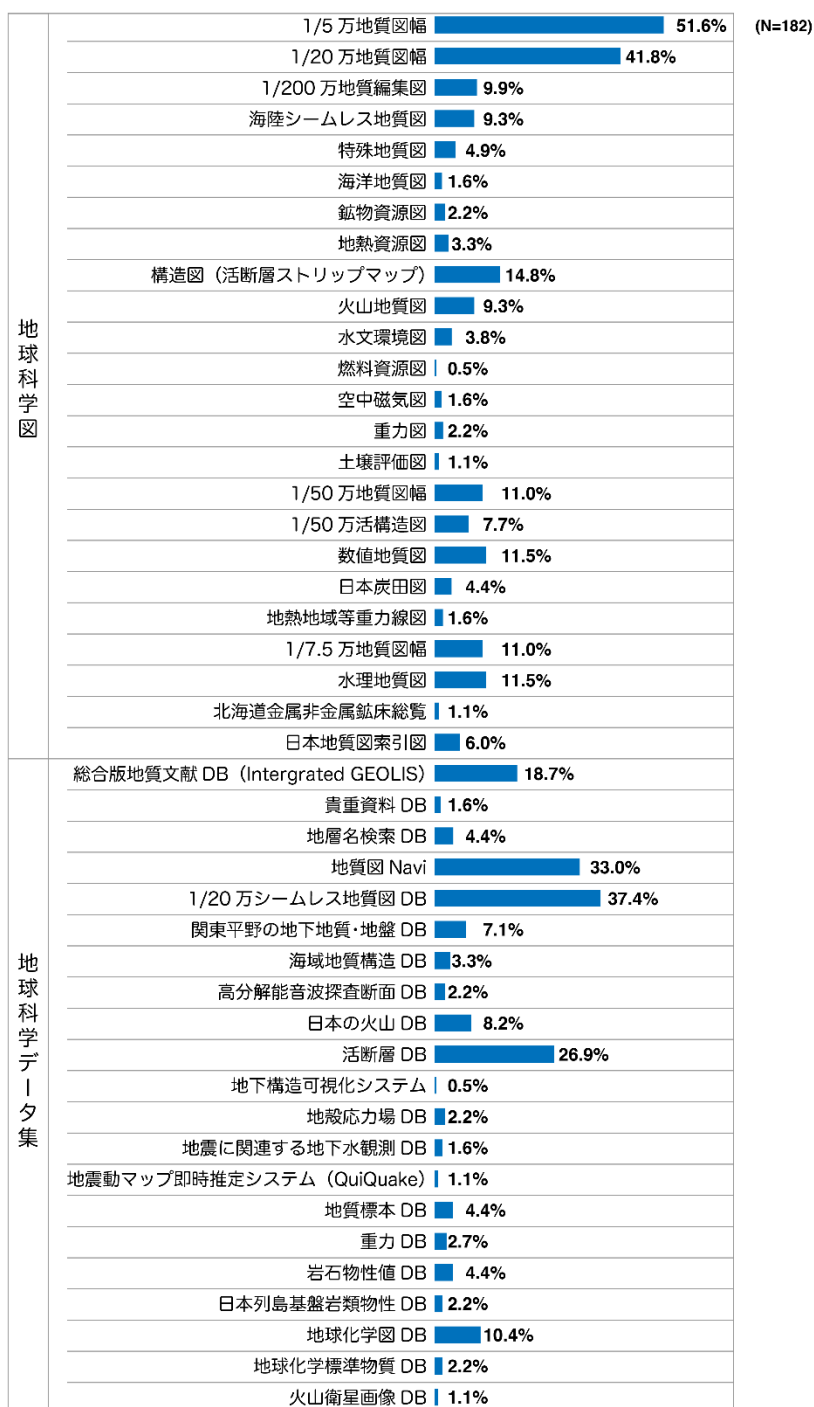
【分析】

認知率・利用率ともに高い。今回は地質調査業という専門性の高い企業が対象であることを考慮すると、妥当な結果である。GSJ の地質情報を利用していない場合の回答においては、GSJ の地質情報を二次利用したサービスを使用している例がみられた。

【今後の対応】

さらに利用して頂くために、現在の整備計画の中で GSJ の研究成果の広報・普及活動、利用環境の整備、2 次利用例の紹介などを進めていく。

B) 利用されている地質情報の種類



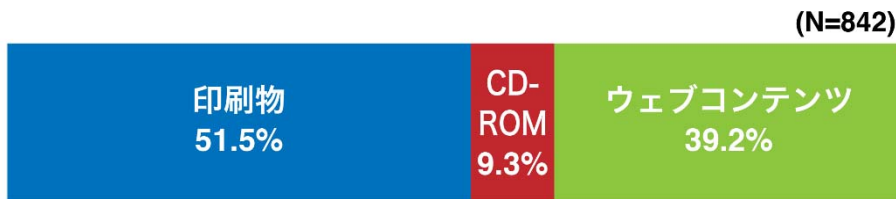
【分析】

GSJ の基幹成果物である地質図幅とその関連サービス及び地球化学図類の利用が大半を占めた。今回の調査対象のユーザーは基幹地質図幅を必要としていると判断される。

【今後の対応】

現在の整備計画に従い、基幹地質図幅の整備を推進する。

C) 利用されている地質情報の形式



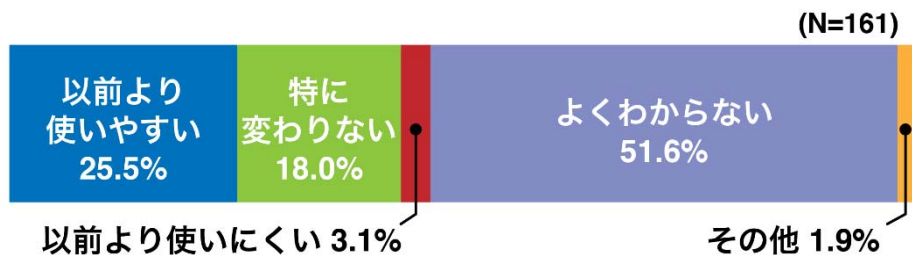
【分析】

まだウェブ上のコンテンツが印刷物よりもかなり少ない時期での調査であったが、「印刷物」が50%強に対して、「ウェブコンテンツ」が40%弱であった。現状は、「印刷物」の利用が最多であるが、コンテンツの充実とともに「ウェブコンテンツ」の利用は更に増える余地がある。

【今後の対応】

今後需要が増えると予想されるウェブ配信への対応を強化するため、現在の整備計画に従い、地質図類のオープンデータ化を進めており、2014年度から体系的に発信を開始する。

D) 2013年10月のライセンスの変更についての認識



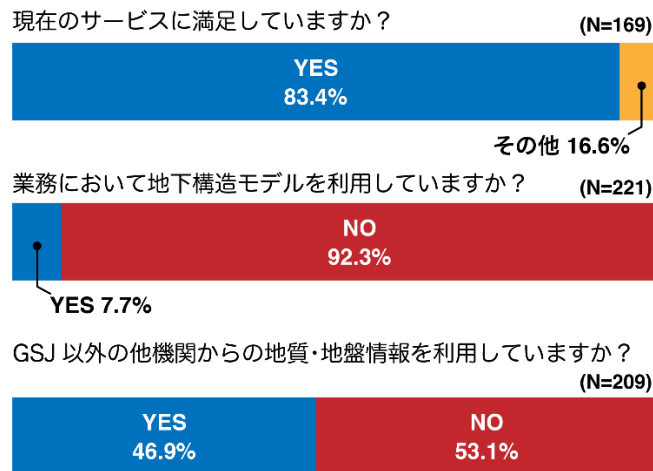
【分析】

「よくわからない」の回答が50%強であった。ライセンスの変更から半年強という時期のアンケート調査であり、周知が行き届いておらず、新ライセンスの利用機会が少なかったためと想像される。25%強のユーザーが「使いやすくなった」と回答しているように、新ライセンスの採用は効果があったことを示している。

【今後の対応】

新ライセンスの周知のため、より詳しい紹介・解説を整備していくこととする。

E) 現在のデジタル配信サービスに対する要望・意見



・現状のサービスに満足していますか？

【分析】
80%以上が現状のサービスに満足しているとの回答であった。デジタルデータの形式については、KML 形式、FTP ダウンロード、W*S 形式の順で要望が多かった。

【今後の対応】
現在の整備計画に従って進めている地質図類のオープンデータ化においては、当面、FTP/KML/W*S の全ての形式でデジタルデータの提供を進める。加えて、野外業務を想定したオフラインで利用可能な環境の整備も必要とされるため、現在の整備計画に従って、2014 年度にはシームレス地質図のオフライン版を公開するなど、順次対応を進めていく。

・業務において地下構造サービスを利用していますか？

【分析】
地下構造モデルについては、利用している割合が 7.7%と低かった。日本に標準となるサービスがないためと推測される。

【今後の対応】
地下構造モデルについては、国内外の動向を注視し、今後、整備計画への反映についての検討を行うものとする。

・GSJ 以外の他機関からの地質・地盤情報を利用していますか？

【分析】
GSJ 以外の他機関のデータ・サービスについては半数近くが利用していた。

【今後の対応】
GSJ 以外の他機関のデータ・サービスとの連携を可能とするシステムを目指し、技術面・制度面の動向を注視していく。現在の整備計画においても、“他種データと地質データを統合的に表示できるシステム構築支援”や“他機関が保有するデータと産総研データバンクのデータとの統合を実現”を目標としており、データ・サービスの統合化について検討を進めていくこととする。

F) 今後の地質情報整備への具体的な要望・意見

(1) 地質情報整備について

- ・未刊行地域の5万分の1地質図幅の出版や具体的な地域における地球科学図類の出版などの基幹地質図類の整備への要望
(「基幹成果物である1/5万地質図幅について未刊行地域をなくして欲しい」「〇〇県内全域の早期出版、〇〇地域空中磁気異常図の出版」など))

【今後の対応】

未出版の地質図幅の整備は、重要な課題であると考えており、引き続き整備を計画していきたい。

(2) サービスの向上について

- ・他機関データとの同時表示・連携・検索対象化などへの要望
(「同時表示できる他機関のデータとの関係を増やして欲しい」「検索対象に他機関やウェブ上のデータを追加して欲しい」)
- ・図幅調査等での露頭情報の追加をしてほしい
- ・スマートフォン向けの表示が狭く全域が見にくい点を改善して欲しい

【今後の対応】

データ（特に地質図等の画像）の表示速度の向上、他機関データとの連携、露頭情報の追加あるいは精度の向上、スマートフォン向け表示の改善などについては現在の整備計画の中で検討・実装を進めていく。

(3) 海外の地質情報について

- ・ウェブを主体とした情報収集に苦勞する

【今後の対応】

一元的に収集できるような体制を検討する。